

議会広報常任委員会視察報告

議会広報常任委員会では、去る 11 月 14 日に開成町を訪問し、次のとおり視察を実施しました。

○ 視 察 日

令和 6 年 11 月 14 日（木）

○ 視察地及び視察目的

開成町

（１）議会だよりについて

（２）議会ホームページについて

（３）議会キッズページについて

○ 視 察 者

荒井直彦委員長、窪田美樹副委員長、三浦大輝委員、石岡実成委員、山田由美委員、笠原俊一委員、伊東圭介議長（オブザーバー）（随員 鹿島次長、保永主査）

◇神奈川県開成町視察概要

1 開成町の概要

開成町は、神奈川県西部の足柄上地区中央部に位置し、東京から 70km 圏内、横浜からも 50km の距離にあり、町域は東西 1.7km、南北 3.8km、総面積は 6.55 km² と県内で一番面積が小さな町です。

また、町の東には酒匂川さかわがわが流れ、西には箱根外輪山、南には相模湾、北には丹沢山塊を望むなど、自然に恵まれたなだらかな平坦地です。

開成町は、平成 27 年～令和 2 年までの 5 年間の人口増加率（国勢調査）は 7.7% で全国 16 位、年少人口割合（国勢調査）は 14.8% で県内 1 位となってお

り、若い子育て世代に選ばれる町として、昭和 30 年の町制施行以来一貫して人口が増加しています。

2 視察概要

視察の冒頭で、開成町の山神裕町長及び吉田敏郎議員より歓迎の御挨拶をいただきました。

今回の視察テーマである「議会だよりについて」「議会ホームページについて」「議会キッズページについて」の3点について開成町議会 山本研一議長、前田せつよ副議長、広報広聴常任委員会 星野洋一委員長、議会運営委員会 武井 正広委員長よりご教示いただきました。また、テーマ以外の部分でも、開成町議会の先進的な取り組みについてお話をいただきました。

（１）議会だよりについて

開成町議会では「ギカイだより」として年4回の定例会ごとに発行しています。編集は、広報広聴常任委員会の中でも広報分科会の委員が行っています。

令和4年に「読む」から「見る（魅せる）」改革として、議会だよりと議会ウェブサイトの大膽な改革を実施し、この年から、それまで A4 判の冊子だった広報紙をタブロイド判（A3で4ページ）に変更しています。書いたものを読ませるのではなく、議会から町民へ呼びかけるものは動画での発信にしたり、記事の詳細はウェブサイトに誘導したりと、議会だよりと議会ウェブサイトを広報の両輪と考えて改革を進め、紙面の情報量の整理・削減をしています。こうした改革により、議会だよりは必要な情報をわかりやすく・見やすく掲載することで、議会だよりへの賛否の声も届くようになったそうです。

また、質問させていただいた広告収入や広報モデルについても状況や町民からの反応などについてご説明をいただきました。

（２）議会ホームページについて

開成町議会のウェブサイトは令和4年9月に議会独自での掲載を開始しました。多様な動画を取り入れることで「読む」ウェブサイトから「見る」ウェブサイトへと変革しています。結果として、開成町議会ウェブサイトの閲覧数は2年

で10%程増加しており、町民からも前向きな反応が届いているそうです。

トップページを開くと最初に流れるインパクトのあるムービーは、定期的に変えている他、各委員会の紹介や議員の自己紹介、一般質問の概要や感想なども動画として掲載しています。これらの動画は、議会事務局で編集しているものもありますが、できる限り議員自らが撮影や編集を行い町民へ届けるようにしているそうです。動画を活用することにより、再生数がリアルな反応として返ってくるため、見られていることを実感できたり、議員自らが動いて発信することで、開かれた議会につながったりと、議会の活性化に寄与しているとのことでした。

こうした新たな取り組みが認められ、令和3～5年度まで3年連続で町村議会表彰を受賞、令和4年度は町村議会特別表彰を受賞しています。

(3) 議会キッズページについて

議会キッズページは、開成町議会のウェブサイトが開設と同時に導入されました。小学校3年生を対象として、漢字に読み仮名を記載したり、わかりやすい言葉で議会について説明したりと工夫されています。特に「町議会体験ツアー」のページは、議会施設の簡単な地図にカメラマークがついており、マークをクリックするとその場所の実際の写真が見られるようになっており、見た方から好評だそうです。

(4) その他

日曜議会や夏休み期間の議場の開放、コロナ禍以外は途切れることなく行っているという議会報告会についてもご説明いただきました。

3 委員所感

<荒井直彦委員長>

ここまでの議会の広報・公聴の分野で、私の知る限り、かなりの高水準で運営している議会であると思います。

葉山町議会がこれから取り組み、進めようとしている内容を既に実施していました。基本の概要は、まず、議員が12名、議会事務局が3名であること。既に通年議会を実施していること。また、議会事務局の担当者の優れた能力と議員一

人ひとりが自信をもって活動をしている様に思いました。

具体的には、

① 当初、議会だよりは、A4サイズの12ページから18ページであったが、サイズを変えてタブロイド判に変更した。（さらに読みやすく）

② 6月の議会で日曜議会を開催（一般質問は30分で行うが、希望者は事前に金曜日に残りの30分を行う）

③ 議会ウェブサイトの契約は5年間で1,000万（1か月17万）

＊今回の視察においては、議会広報常任委員会だけで実施したが、行っていない議員も年度内に視察研修をすべきであると思います。

＊今後、開成町を参考にして、可能な限り、取り組みを進めたいです。

<窪田美樹副委員長>

全国町村議長会「デジタル技術活用事例集」に、県内自治体開成町が掲載され、内容も葉山町議会が議会改革として取組んでいるものばかりで、参考にしたいと思い視察をお願いしました。

議会ホームページは町ホームページからでは議会情報にたどり着くまでに、クリック数が増えてしまうため、「キッズページ」のデザインも含め独自でつくったということでした。

「議会だより」はタブロイド判で、掲載しきれない部分をウェブサイト誘導するという改革の結果、これまでの「議会だより」や「町だより」の概念を変えた全く違うものとなっていました。

「キッズページ」は議会ホームページ上に掲載され、対象となる子ども達は学校で配られているタブレットから閲覧するということでした。

一般質問の動画では、動画作成アプリを利用し各議員の生の声を予告、本番、感想と毎議会掲載していました。

質問中の資料をタブレット等から中継するのではなく、中継カメラをズームしてネットに上げるとのことでした。

年1回の日曜議会や町内14地区で行う「議会報告会・意見交換会」は、議会

を身近に感じてもらうには一番だと感じました。

実際の開成町議会の担当職員・議員の声は、驚きと取り入れたいものが多くありました。葉山町議会では経費や担当職員への負担を考えると難しいところもありますが、デジタル化促進は議会として必要不可欠です。苦手という理由で足踏みしてはいられません。現タブレットを更に生かせるよう、改革内容を精査し進めていかなければと思いました。

<三浦大輝委員>

- ・議会だよりや議会ホームページの作成には議会事務局の職員さんが大きく貢献していることがわかった。日本一の議会ホームページをつくろうというコンセプトのもとに、大学など様々専門機関に調査を行い、制作した。ホームページの維持管理費としては、5年間で1,000万円の外注費がかかっており、月々では17万円とのことであった。また、バナー広告なども募集し収益を得る工夫をしていることもわかった。
- ・YouTube にアップロードしたショート動画を中心に動画を活用して発信に力をいれていることがわかった。基本的には各議員が自身で動画を編集していることは驚きであった。YouTube 上では、コメント欄を閉鎖し、問い合わせはメールに一本化するなどの工夫もみられた。

【所感】

- ・議会事務局の職員さんのアイディアによるところが大きいと感じたが、議員の方々も年齢を問わず、新しいことにどんどんチャレンジしていこうとする姿勢に感銘を受けた。特に議会ホームページについては、当町ではまだまだ改善の余地があるので、参考にしていきたい。また動画を使った発信は大変効果的であることがわかったので、研究していきたい。

<石岡実成委員>

今回の視察は、同じ神奈川県内の開成町議会のホームページや議会だよりが凄いい事になっているという委員長の話から実現したのですが…

事前に開成町議会のホームページを開いた瞬間から、大きな衝撃を受けたことをよく覚えています。「なんじゃこれは!!」が第一声でした。

決して悪口ではなく、誉め言葉として、行政らしからぬ斬新なデザインのトップページに圧倒され、そこから展開するカテゴリー別となるページも異次元の世界でした。

ちょっと先進的な一般企業のホームページとして見ても、疑問に思わないほどの、色使い、レイアウト、タイポの使い方、欲しい情報に辿りつけるまでの操作性、どれを取っても優れたものでした。

こうして、事前に見てしまった開成町議会の広報改革は、知れば知るほど疑問だらけとなり、視察の中で明らかになった経緯や経過を伺い、ようやく納得しながら帰ってきた感じです。

◆少し簡単に分析すると…

① 本来、大抵の自治体は、議会独自のホームページは持たず、行政で開設するホームページにぶら下がりしているのですが、開成町は議会単独のホームページを開設し、議会としてやりたい事をやりたいように実現しています。(5年間で1,000万円の新たなコスト増)

② 歴史や慣例、議会側の固定概念を捨て、町民目線に立って、思い切った見せ方を動画重視で表現しています。

③ ホームページのリノベーションに伴い、議会だよりも連動させ、紙面として伝えるべき情報のみを選定、集約し、通常20ページ前後になる紙面を、見開きのタブロイド判にまとめています。(これによる年間70万円のコスト削減)

こうした開成町のミラクルな取り組みですが、大改革を成し得るあたり、その立役者になったのが、議会事務局の女性職員の発案からだったという事なのだそうです。

その事務局員が、自ら考え、資料を作り、プレゼンテーションを経て、議会がそれに賛同し採用、予算を取って実現…。本当に凄い!!凄いとしか言いようが見つきません。

やっぱり、ミラクルな改革は、ミラクルな人が起こしたことは間違いなく、ただ、

それを理解し賛同し、大改革を成し遂げた開成町の議員の皆さんの柔軟な姿勢にも感服します。

現在、当町に於いては、ホームページに関する議論はほぼ皆無であり、先ずは、議会だよりを読み易く、分かり易くと、従来の新聞記事的な表現から、手に取りやすい雑誌的なレイアウトに変更した紙面づくりに取り組んでいる所です。

しかし、開成町議会のように、「読む」から「見る＝魅せる」改革というコンセプトは、本当に見習うべきで、これを、葉山スタイルに置換えたデザイン、レイアウト、はたまた、記事(情報)そのものの扱いも含めた更なる改革が必要なのだと思います。

まだまだ上には上がいて…、

発想やアイデアを、町民からも何うような機会があっても良いのではとも思いました。

時代の変化についていくということが、どういう事なのか？今一度議論する必要もあろうかとも思いました。

<山田由美委員>

令和2年に新築された真新しい庁舎で、お話を伺いました。通年の会期制や日曜議会など、先進的な取り組みが進んでいる町です。議場を中学生以上の自習室に貸し出すというのも、画期的な試みだと思います。

広報や広聴についても、次々と新しいアイデアを取り入れています。大きな柱が2本あり、一つは「議会だよりを読みやすくすること」、もう一つは「ウェブサイトを開設し、動画の発信を多くすること」だそうです。

町の人口が増え、外部から若い世代が流入しているため、若い世代が興味を持ってくれるような発信が必要となったというお話でした。実際に閲覧数が増え、着実に効果が上がっているそうです。また、町民の皆さんに日曜議会の感想を聞き、画用紙に書いてもらって議会だよりに登場してもらおう試みも、素晴らしいと思いました。

町のホームページに間借りするのではなく、議会独自で事業者と契約し、サイ

トを作成しているのは驚きでした。一般質問のショート動画や、委員会・議員個人の紹介ムービーなど、まめに動画を作成しているうちに、どんどん議員のスキルが上がっていくという、プラスの循環が働いているようです。発信が多いと大変ですが、町民からの反応があると励みになる、というお話でした。

正直、あまりに進んでいて圧倒される部分が大きく、どこまで葉山で実現できるか未知数ですが、自分としてはまず、動画を撮る勉強をしなければと思いました。時代の変化に合わせて、自分も進化しなければならないようです。

<笠原俊一委員>

11月14日、開成町広報委員会を視察、町の概要としては面積 6.55 km²、人口 18,767 人（令和 6 年 6 月 1 日）年少人口割合県内 1 位。人口増加傾向の町。若い子育て世代に選ばれる町。平成 27 年 4 月から通年議会になり、日曜議会や傍聴促進に無料託児サービスも令和 4 年 6 月から実施。

令和 2 年 6 月よりタブレット端末利用の会議。議会映像インターネット配信などは、葉山町と変わらないのではないかと感じた。

しかし、議会報告会・意見交換会や議場の開放。ネットによる議員紹介や広報紙は読むから見る紙面へと大きく変貌している。

当町広報常任委員会でも毎号で試行的に新たな紙面作成をしているが、開成町広報紙と同様な紙面作りネット配信など改革のための議論はされていない。また、2 年の任期がある中でのこうした作業は編集委員と職員の負担が大きいと感じた。ちなみに開成町では、専門的な職員がいることや議長を除く、全議員 11 人が広報広聴委員会に所属している。また、年間の定例会や委員会開催日数の格差が大きいと感じた。



開成町議会での視察の様子



開成町議会ウェブサイト



開成町議会キッズページ

令和 6 年 12 月 13 日

議会広報常任委員会